

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成26年11月27日(2014.11.27)

【公開番号】特開2012-127348(P2012-127348A)

【公開日】平成24年7月5日(2012.7.5)

【年通号数】公開・登録公報2012-026

【出願番号】特願2011-271100(P2011-271100)

【国際特許分類】

F 0 2 M 35/10 (2006.01)

F 0 2 M 35/104 (2006.01)

【F I】

F 0 2 M 35/10 1 0 1 F

F 0 2 M 35/10 1 0 2 Q

F 0 2 M 35/10 1 0 2 K

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月10日(2014.10.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

図 5 が示すように、吸気通路 6 1 は気化器接続フランジ 3 2 において径 d を有している。従って、径 d は連通接続部材 2 8 の気化器側端部において測ったものである。誘導リブ 3 9 の高さ h は吸気通路 6 1 の径 d よりもかなり小さい。有利には、高さ h は吸気通路 6 1 の径 d のほぼ 5 % ないしほぼ 2 5 %、特にほぼ 1 5 % ないしほぼ 2 0 % である。連通接続部材 2 8 は気化器接続フランジ 3 2 に受容部 5 6 を有し、該受容部 5 6 内に中間リング 3 6 を位置固定するための要素が突出している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

接続フランジ 3 2 と 3 3 にはそれぞれパッキン 4 5 と 3 4 が配置され、これらのパッキンはそれぞれの接続面での開口部を取り囲んでいる。図 1 0 と図 1 1 が示すように、気化器接続フランジ 3 2 にはパッキン 4 5 が配置され、パッキン 4 5 は連通接続部材 2 8 の材料から成って該連通接続部材 2 8 に一体に射出成形されている。パッキン 4 5 の両側には溝 6 7 が設けられ、これらの溝 6 7 はパッキン 4 5 を取り囲んで、該パッキン 4 5 の好適な押圧と側方への変位を可能にしている。パッキン 4 5 は両入口 7 0 と 7 1 とを同時に取り囲んでいる。仕切り壁 7 4 は気化器接続フランジ 3 2 の接続面 7 5 のすぐ後方に始端を有している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 0 】

